

(別紙1)本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前	平田幹夫		所属	教育学部 附属教育実践総合センター	職名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	①3年次(1名)のゼミ指導を行う。 ②4年次(2名)の卒論指導を行う。 ③教育実践ボランティア事業を通して、教員養成段階における学生の実践的指導力を高めるようにする。 ④学生のプレゼン能力を高める授業を行う。 ⑤教師になっているゼミ卒業生への定期的なフォローアップを行う。 ⑥アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。	0.26	①3年次のゼミにおいては、論文が読めるように心理統計に力を入れたゼミを行った。 ②卒論指導においては、「児童と教師の信頼関係を把握する図版パターンと児童の教師に対する安心感尺度との関係」のテーマで指導を行った。 ③学生を教師の補助員として学校現場に派遣する教育実践ボランティア事業を企画運営し、2回の全体の報告会を持ち学生の教育的実践能力の向上を図るように努めた。 ④大学院の院の講義と学部の講義においては、パワーポイントで課題発表を行わせたことによって、学生のプレゼン能力を高めることが出来た。 ⑤ゼミ出身の現職教員及び卒業生に対してに生徒指導・学級経営についての支援を25回行った。 ⑥臨床描画心理学の講義において、毎回受講学生全員がパワーポイントによってグループ及び全体の中で発表することが出来た。大学における学びの一形態を実践することが出来た。		
研究	0.25	①附属中学校研究の総論における共同研究者として共同研究を行う ②教育実践ボランティアの活動を報告書としてまとめる ③教育に関する論文を書く ④奨学寄付金によるカウンセリングにおける描画対面法の開発研究を行う。	0.25	①附属中学校研究の総論における共同研究者として共同研究を行うことができた。 ②教育実践ボランティア事業の企画運営指導を行い、その活動成果を報告書としての活動を報告書としてまとめた。 ③日本描画テスト・描画療法学会において、口頭発表を行った。実践センター紀要23号に投稿 ④奨学寄付金によるカウンセリングにおける描画対面法の開発研究を行った。		
社会貢献	0.25	①教員免許更新講習への協力 ②浦添市立教育研究所の運営委員。 ③県及び市町村教育委員会及び小中高等学校での研修会への協力 ④那覇市子ども政策審議会部長 ⑤沖縄市行政評価委員 ⑥ 琉球大学と南部広域行政組合教育委員会との連携協力推進委員 ⑦カウンセリング	0.25	①平成26年度教員免許更新講習において、講座名「今求められる教員の資質と教育の最新事情」の講師:名桜大学会場 ②浦添市立教育研究所の運営委員長として運営に関わった。 ③県外及び市町村教育委員会及び小中高等学校での研修会への協力・「とよみ小学校PTA教育講演会講師」「大宮中学校生徒・保護者対象の教育講演会講師」「八重山教育事務所教職10年経験者研修会講師」沖縄市教育行政評価委員会委員長「放送大学公開講座講師」「若狭小学校校内研集会講師」伊是名村小中学校合同研修会講師「国頭教育事務所10年経験者研修会講師」「コザ小学校校内研集会講師」「免許更新講習会講師:名桜大学」「那覇市子ども政策審議会副委員長」「宮古島市小中学校教育相談担当者研修会講師」「那覇市認定こども園選定部会長」「浦添市学習支援員研修会講師」「全国適応指導教室連絡協議会四国・九州地域会議沖縄大会講演講師」「大宮小学校PTA講演会講師」「子どもの心を理解する保護者交流会講演会講師」「カウンセリング実践講座講師(6回) ④那覇市子ども政策審議会部会長として審議をとりまとめた。 ⑤沖縄市行政評価委員会委員長として審議のとりまとめを行った。 ⑥琉球大学と南部広域行政組合教育委員会との連携協力推進委員として関わった。 ⑦現職教員へのカウンセリングを37回おこなった。児童生徒及び保護者に対して42回のカウンセリングを行った。 ⑧全国附属学校連盟PTA連合会幹事として、全国の附属学校園のPTA活動の支援を行った。		
管理運営	0.03	①教育学部 教育委員会委員	0.02	教育学部教育委員会の委員として学部運営に関わった		
進路指導	0.22	①教員希望ゼミ生に対しては、学校現場に触れる機会を多く持ち、子ども理解と実践的指導力が高まるように指導を行う。 ②ゼミの教員希望の学生に対して、教員採用試験に関する情報を提供し、採用試験に関するアドバイスを行う。 ③教員志望OB学生(補充教員)に対する支援を行う。	0.22	①教員希望ゼミ生に対しては、学校現場に触れる機会を多く持ち、子ども理解と実践的指導力が高まるように指導を行った。 ②ゼミの教員希望の学生に対して、現職の教員を招いて教員採用試験に関する情報を提供する機会をもったり、二次試験に対する模擬授業や論文指導を行った。他コースの学生に対しても実技指導において附属中学校と協力して指導を行った。 ③教員志望OB学生(補充教員)に対する支援を行った。		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		玉城 きみ子	所 属		教育学部附属教育実践センター
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部の教育目標を基に、学生が自ら課題を発見し、解決策を考え実行できるような対話活動等を取り入れた授業改善を図る。教職科目における理論と実践を結びつけながら学び合い・磨き合いを重視した学生主体の授業を行う。</li> <li>教職体験Ⅱにおいては、これまでの反省を踏まえて共通確認事項を整理しまとめ、それをを学生や大学関係者に配布すると共に次年度の手引きに挿入できるようにしていきたい。</li> <li>教職体験Ⅱ、教育実践研究、教育実習、模擬授業の充実のため、学生のニーズに応じた取組や補講を行うと共に学校現場との連携を密にする。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が主体的、協働的に授業に参加出来るように、学生の課題や問い等をもとに授業展開をしてきた。一人学びの場を設けることで自己の考えを明らかにし、その後、各自の考えを交流する学び合いの場において、それぞれが自己の考えを再構築し、新たな課題にも真摯に取り組むようになった。</li> <li>教職体験Ⅱのこれまでの反省を踏まえた共通確認事項を整理しまとめることができた。それを平成28年度の手引きに挿入する準備が整った。</li> <li>模擬授業や教職体験Ⅱ、教育実習等において大学での学びと学校現場での授業観察や授業づくり等を通して学びの往還ができ、実践的指導力をつけるための取組みが充実してきた。</li> </ul>
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>附属小の国語部や公立学校との連携による共同研究を行い、学力向上に向けた「わかる授業づくり」の実践研究に取り組むと同時に連携を図ることで見えてきたことをまとめる。</li> <li>教員をめざす学生の資質向上のために大学と附属学校との連携の強化を図り、効果的な教育実習の確立にむけた研究を昨年に引き続き行っていく。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>附属小の国語部や公立学校、県内の教育関係機関と教育実践センターとの連携が強化され、「子ども主体の授業づくり」に対する取組みが活性化してきた。その共同研究としての実践的な取組みを平成27年度の教育実践センター紀要に掲載することができた。</li> <li>学生の資質向上にむけた附属学校と大学との連携が強化され、充実した教育実習を実施できた。</li> </ul>
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立学校との連携を強化し、昨年に引き続き、教員養成・教員研修・校内研修の指導助言や支援を行う。特に公立学校で行われる校内研究授業や授業研究会には、積極的に関わり、言語活動の充実に向けた授業づくりについて意見・情報交換を行い、教師の資質向上に向けた取り組みの強化を図る。</li> <li>平成27年度免許状更新講習 必修5組の世話役の責任を果たすように努力する。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は、例年以上に公立学校や関係機関からの派遣要請依頼が増え、アドバイザー・スタッフ派遣事業の定着と公立学校教職員の授業づくりに対する意識の高さを実感することができた。それに応えるべく、授業づくりや校内研究の指導助言に積極的に関わり、言語活動の充実と子ども主体の授業づくりに力を入れ、教師の資質向上に向けた取組みを強化することができた。</li> <li>免許状更新講習、必修5組の世話役の責任を果たすと同時に講習内容の充実を図った。</li> </ul>
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携部門会議やセンター運営会議、教員養成運営協議会等の協議・運営に積極的に参加する。</li> <li>NARAEネット推進会議では事務局副次長として会議のスムーズな運営に努める。</li> <li>教職体験Ⅱでは、公立学校との連携を密にし、円滑で有効な学びのある体験活動の実施に努める</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター運営会議や地域連携部門会議、教育実習委員会、教員養成運営協議会の協議・運営に積極的に参加することができた。</li> <li>NARAEネット推進会議では、事務局副次長として計画的に会議を進めてきた。本年度は例年以上にNARAEネット関連の連携の強化が図られ、内容も充実してきた。</li> <li>教職体験Ⅱでは、公立学校との連携が円滑に行われ、学生は有意義な体験活動を実施できた。</li> </ul>
進路 指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員採用試験2次対策で模擬授業や面接等の講師を務める。</li> <li>学内の認定試験(国語科)では、教員採用試験対策に適切な作問を行う。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員採用選考試験2次対策で模擬授業や面接等の講師を務め、学生のニーズに応えるべく努力した。また、論文指導等にも関わってきた。</li> <li>学内の教員採用選考試験に向けた認定試験(国語科)では、教員採用選考試験対策に適切な作問を行い、解説等においても分かりやすく説明するように心がけてきた。(年間2回、5月と2月実施)</li> </ul>
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		丹野清彦	所 属		教育学部附属教育実践総合センター
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員養成機関としての長期計画に加え、教職大学院設立に向け、担当と協力し職務の充実に取り組む。</li> <li>・「学校教育実践研究Ⅰ」、「学校教育実践研究Ⅱ」の把握・充実に努め学生が教職を目指し、実現できるよう「教師の仕事の楽しさ」を機会あるごとに話し広める。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職大学院設置に向け、①沖縄県の教育の状況をつかむ②授業構想や実技の方法を把握する③授業を参観し助言や大学院の広報をすることに力を尽くした。</li> <li>(2) 「学校教育実践研究」、「特別活動」では、教育実践の本質についての理解を先行実践や学習指導要領から学び、授業構想につながる指導を工夫し、レポートの感想を繰り返し分析し、学生にわかりやすく指導することができた。</li> </ul>
研究	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場との連携を密にし、沖縄の抱える学校現場の状況や教員養成(実習)の課題を把握し、改善できるよう研究に参加し取り組む。</li> <li>・他大学や諸機関からの情報収集や研修に努め、教員養成や実践センター及び教職大学院の計画・運営にあたる。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学力についての研究成果を基に学校現場での学力向上に向けた実践的提案についての研究を進め、沖縄市教育委員会での学習会や附属小、附属中、八重瀬町、沖縄市の各小学校、中学校での研修会に生かした。また、他大学の研究大会にも参加し、情報を集め認識を深め運営にあたることができた。</li> </ul>
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校や教育委員会、研究団体等からの研究会への参加の要請や講座・講演の依頼に積極的にこたえる。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「地域連携事業部門」において沖縄市の宮里、諸見小学校での研究や越来中学、八重瀬町白川小学校、沖縄県の各地区の組合の研修会、北海道をはじめ全国各地の研究に積極的に応えた。</li> </ul>
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学部教育実習委員会等において実践センターの立場として、また、教職大学院「高度教職実践専攻」準備会に関わる立場から積極的に協議会・運営委員会に参加する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職大学院創設に向けたワーキンググループとして、平成28年4月開設に向けた運営推進計画づくりに努力した。また、オープンキャンパスをはじめより周知できるよう配慮し、実習の担当者として教職大学院に必要な制度設計、実習校との連絡・調整に努めた。</li> </ul>
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校教育実践研究」との関連から学生の質問や相談に親切丁寧に応じ学校現場で働く苦勞と楽しさを伝える。</li> <li>・教採セミナー等に積極的に関わり、模擬授業や面接等の援助を行う。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校教育実践研究や特別活動の関連や他の講義を積極的に引き受け、ゲストとして講義を行い、学生の質問や、実践レポートを読みたいという学生の要望に応え、毎週特別講義を行った。また、教員採用セミナーに向け模擬授業の要望にも応え、積極的に助言を行った。</li> </ul>
計	1.00				・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。